



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆さま等と協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.5

地域連携病院①

『すべては患者さんの1日も早い復帰のために』今回は、患者さんの早期復帰にチーム医療で取組む稲次整形外科病院をご紹介します。

■明るく開放的で親切丁寧な接遇態度

地域医療連携は、患者さんが住みなれた地域で自ら望む医療を安心して受けられるよう、大学病院等の高度先進医療を担う病院と、地域の病院が密接に協力してこそ効果を発揮します。

稲次整形外科病院の基本方針について、稲次正敬理事長は次のように語ります。

「地域における急性期医療から在宅医療への橋渡し役として、救急医療と亜急性期・回復期医療の質を維持することを目指しています。患者さんの一日も早い復帰のためスタッフ全員が全力で取り組んでいます」

稲次理事長の優しく穏やかな口調と物腰が象徴するように、病院の雰囲気も明るくスタッフの応対も実に親切丁寧で、シティホテルか高級レストランを思わせるほどです。

稲次理事長は兵庫県生まれで、1972年に徳島大学医学部を卒業。藍住町出身の奥様との出会いが縁で、徳島県下でも発展著しい吉野川北岸のこの街で開業します。現在では病床数48、凌雲グループ全体で職員・スタッフ365名を数える規模になるまでに至りました。

■安心のバリアフリー高齢者賃貸住宅

徳島大学病院との連携ではとくに脳外科分野に力を入れており、昨年度の大学病院等の急性期病院から転院された方はおよそ200名ですが、そのうちの4分の1が徳島大学病院からの脳卒中患者さんです。

「密接な連携で早くアプローチできます。とにかくスピード感とフットワークが何よりも大切。初期対応が後々まで回復に大きく影響してきますからね。」(稲次理事長)

また、重点を置いているのが「患者さんを第一に考えたチーム医療」で、コーディネーターの役割を果たすこと。リハビリ医療だけに偏ることなく、適切な診療を提供できる診療連携体制によって、早期自宅復帰・社会復帰を目指しています。

医療法人、社会福祉法人としての凌雲グループの基本方針は「住み慣れた地域での生活を支援しよう」、キーワードは「地域とリハビリテーション」、そして「在宅と連携」。

今秋には病院の近くにバリアフリーの高齢者賃貸住宅がオープン。施設ではないので自由な生活を楽しみながら、病院の医療機能やバックアップを十二分に受けられます。患者さんにとっての快適、安心が益々充実したものとなっていくよう、さらに継続、持続した取り組みが続いているのです。

「地域医療連携」について

徳島大学病院地域医療連携センターでは、大学病院と地域の医療機関との円滑な橋渡しを目指して、大学病院での高度先進医療から、患者さんがお住まいの地域の診療機関と連携し、在宅療養へと継続できるようなサポートしています。



説明は
医療法人凌雲会
社会福祉法人凌雲福祉会
理事長・医師

稲次正敬

(いなつぎまさのり) / 写真中央

■問い合わせ

稲次整形外科病院
Tel.088-692-5757(代)
徳島県板野郡藍住町
笠木字西野50-1